

第15回 全国私立大学附属・併設中学校・高等学校 教育研究集会（附属校サミット）

テーマ：これから求められる教師力

酷暑の夏。政権迷走。デフレスパイラル。近隣アジア諸国との競争激化。今、社会は大きく動いています。“ゆとり教育世代”が大学を卒業して社会に出てきます。小1プロブレムも中1ギャップも高1クライシスも、そして内定ブルーも、生活環境の変化や期待される技能、価値観の変化に対応できるかどうかという不安から生じています。“環境変化に弱い”子ども達が増えているとすれば、学校教育はどのような対策をうてばよいのでしょうか。また、企業からも若者のコミュニケーション能力不足が指摘されていますが、単に語彙が足りないだけでなく（英語活用能力も含めて）電子ツールを介さない Face to Face のやりとりがうまくできない子ども達をどのような方策で教育すればよいのでしょうか。社会変化が尋常でない速さで進む時代にあって、学校だけが“古い世界”であってはなりません。

私立学校には建学の精神に基づき、優秀な人材を世に送り出す使命があります。教師に求められる資質能力は、明らかに30年前、20年前とは異なってきました。“新しい世界”を生きる子ども達を社会の要請に応える人材として送り出すには、教師自身にどのような教師力（資質能力）が求められているのでしょうか。

この度、玉川学園が第15回附属校サミットの会場校としてみなさまをお迎えすることになりました。本学は、創立者小原國芳が全人教育を発信したまさにその場所です。晩年、小原國芳は「師道」を著しました。教育の根本は全人教育、そしてそれを具現化するには教師を磨かなければならない、と。

2日間にわたるこの教育研究集会が実り多きものとなるように願っています。

2010年11月

玉川学園中学部・高等部

第 15 回 全国私立大学 附属・併設 中学校・高等学校 教育研究集会 ～これから求められる教師力～

日 時 : 2010年11月12日(金) 10時00分～19時00分
および 11月13日(土) 9時00分～16時30分

場 所 : 玉川学園中学部・高等部 [URL <http://www.tamagawa.jp/>]
〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1
電話: 042-739-8928 FAX: 042-739-8929 (担当: 学園教学部)

全体スケジュール

12日 (金)		受付	10:00-10:50 公開授業	移動	11:10-11:30 開会行事	11:30-13:00 基調講演	昼食移動 連盟総会 (13:10-)	14:10-16:30 シンポジウム	移動	17:00-19:00 懇親会	解散
13日 (土)	受付	9:00-9:50 生徒発表	移動	10:00-12:30 分科会【第1部】 <small>(*分科会(3)のみ 11:45 終了)</small>		昼食 移動	13:30-16:00 分科会【第2部】	16:00- 閉会行事	解散		

基調講演

「学びの原動力は好奇心」

秋山 仁 氏 Jin Akiyama

ヨーロッパ科学院会員、東海大学教育開発研究所所長、中国南開大学客員教授、
(NPO) 体験型科学教育研究所理事長、(財)平成基礎科学財団理事、(社)
全国幼児教育研究協会理事、日本文藝家協会会員、京都芸術高校名誉校長、
NHKラジオ・テレビ講座講師、アコーディオン奏者

【略歴・主な著書】

上智大学大学院数学科を修了後、ミシガン大学数学客員研究員、米国 AT&T
ベル研究所科学コンサルタント(非常勤)、日本医大助教授、東京理科大学
教授、科学技術庁参与、文部省教育課程審議会委員などを経て、現在に至る。
「数学流生き方の再発見(中公新書)」「こんなところにも数学が!(扶桑社)」「
数学ワンダーランドへの1日冒険旅行(近代科学社)」他著書多数。



タイムスケジュール

11月12日(金) **第1日目**

時間	内容	場所
9:30-	受付	中学年校舎入口
10:00-10:50	公開授業 *科目、内容等については、6~10頁参照。	中学年学習校舎 アートセンター サイテックセンター 高学年校舎 他 各教室
10:50-11:10	休憩・移動	
11:10-11:30	開会行事 連盟会長挨拶・玉川学園長 開催校挨拶	中学年講堂
11:30-13:00	基調講演「学びの原動力は好奇心」 東海大学教育開発研究所 所長 秋山 仁氏 *略歴等は3頁参照。	中学年講堂
13:00-14:10	諸連絡後、昼食休憩 昼食引換場所： <u>中学年学習校舎1階ロビー</u> 昼食場所（一般参加者）： <u>中学年学習校舎1階各教室</u> 13:10- 実施連盟総会 場所： <u>中学年中央校舎2階「音楽室2」</u>	中学年学習校舎 (左記参照)
14:10-16:30	シンポジウム「求められる教師力 ―採用・研修・評価― ○学校法人立命館 一貫教育部部長 松井 健氏 ○東京都立両国高等学校・附属中学校 校長 大平一男氏 ○総合警備保障株式会社 常務執行役員 宮澤裕一氏 ○玉川学園 学園教学部長 石塚清章 (司会) *詳細は、10頁参照	中学年講堂
16:30-17:00	休憩・移動	
17:00-19:00	懇親会（参加希望者）	朔風館食堂

11月13日(土) **第2日目**

8:30-	受付	中学年校舎入口
9:00- 9:50	生徒発表 (1) スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 「高校生による脳科学研究」 (2) 国際交流 「アフリカン・スタディーズ2010」 *詳細は、11頁参照。	中学年講堂
9:50-10:00	休憩・移動	

10:00-12:30	<p>分科会【第1部】</p> <p>(1)「中学校・高校・大学(社会)の学びの連続性を考える」 —中・高・大とつなげる「学び」と「指導」 【主に教科主任、学年主任向け】 ○千葉大学教育学部教授 天笠 茂氏 ○玉川大学教職大学院教授 小松郁夫 ○玉川学園 中学年教育部長 酒井健司(司会) *詳細は、11頁参照。</p> <hr/> <p>(2)「IBの学習者像に基づく探求型学習の実践例の紹介」 【主に中堅教員向け】 ○立命館宇治中学校・高等学校教諭 和野友子氏 ○玉川学園 IB担当教員 ブラッド・ポーテ、 ハッチ・ジェームス、マーフィー・クリストファー ○玉川学園 学園教学部次長(国際学級担当)岡田洋介(司会) *詳細は、11頁参照。</p> <hr/> <p>(3)「スーパーサイエンスハイスクール指定による教師の 取組と役割」 【主に理科教員向け】 ○玉川学園高学年理科主任・SSH担当教諭 小林慎一 ○玉川学園高学年SSH担当教諭 渡辺康孝 *詳細は、11頁参照。</p> <hr/> <p>(4)「学校図書館の役割 - 教科教育との協働を目指して」 【主に図書館、国語教員向け】 ○玉川大学通信教育部・教育学部准教授 河西由美子 「学びの場としての学校図書館の役割」 ○玉川学園教諭・学園マルチメディアリソースセンター 伊藤史織 実践報告「学びの技」 ○荒川区教育委員会指導室 学校図書館支援室 主任学校図書館 指導員 藤田利江氏(助言者) ○国士舘大学21世紀アジア学部准教授 桑田てるみ氏(助言者) ○玉川学園 学園マルチメディアリソースセンター長 藤樫大二郎(司会) *詳細は、11頁参照。</p>	<p>中学年講堂</p> <hr/> <p>サイテックセンター 5階 505教室</p> <hr/> <p>サイテックセンター 1階 スターレックルーム</p> <hr/> <p>学園マルチメディア リソースセンター (高学年校舎 2階)</p>
12:30-13:30	<p>昼食・移動</p> <p>昼食引換場所：<u>中学年学習校舎1階ロビー</u> 昼食場所(一般参加者)：<u>中学年学習校舎1階各教室</u></p>	<p>中学年学習校舎 (左記参照)</p> <p>場所の詳細は14頁 を参照ください。</p>
13:30-16:00	<p>分科会【第2部】</p> <p>(5)「高大接続の事例とそれぞれの教師の役割」 (高校教師・大学教員の意識の違いやそれぞれ求められる 役割について)</p> <p>○同志社大学社会学部教授・初年次教育学会会長 山田礼子氏 ○大分大学学長補佐・大分大学経済学部教授・高大接続教育GP 実施責任者 宮町良広氏 ○大分大学特任教授・高大接続教育コーディネーター・前大分雄城台 高校校長 甲斐隆文氏 ○玉川学園 高学年教育部長 高島健造 ○玉川大学教学部長・玉川大学経営学部教授 菊池重雄(司会) *詳細は、12頁参照。</p>	<p>中学年講堂</p>

13:30-16:00	分科会【第2部】 (6)「国際理解力と教師力」 【主に国際担当、一般教員向け】 ○玉川学園 学園国際交流センター長 樽松史人 ＊詳細は、12頁参照。	中学年学習校舎 2階 208教室
	(7)「生徒の学ぶ力を引き出す教師のグループファシリテーションスキル」(人間関係づくり、社会性を高めるアドベンチャープログラムを通して) 【主に新採用～10年目位の教員向け】 ○玉川大学学術研究所心の教育実践センター 主任代理・准教授 難波克己 <u>参加型ワークショップ形式</u> ＊詳細は、12頁参照。	心の教育実践 センター ホール
	(8)「授業力短期集中講座(スキルアップ研修)」 (モチベーション向上のための、すぐに役立つ数々のテクニック) 【主に新採用～4年目位の教員向け】 ○授業学研究所 所長 大矢 純氏 <u>参加型ワークショップ形式</u> ＊詳細は、12頁参照。本分科会は、途中で2グループに分かれます。	中学年学習校舎 2階 210教室
16:00-16:30	閉会行事・事務連絡	中学年講堂
16:30	解散	

公開授業

12日10:00- 各校舎教室

公開授業をご希望の方は、以下の授業よりお選びください。
 授業途中での退出も可能です。
 なお、公開している授業実施の部屋以外の教室にはお入りにならないようお願いいたします。

7年生(中1)

★英語

授業内容	「EFLクラス」
授業の概要	シンプル コミュニケーション スピーキングとリスニング能力向上を目指したアクティビティ中心の授業を行います。
場 所	中学年学習校舎 3階 307教室

★技術・家庭(家庭分野)

授業内容	お弁当作りの発表
授業の概要	事前に食生活と調理について学び、調理実習を経験します。 その知識を最大に生かして自分のお弁当の献立を考え、自宅で実際にお弁当作りを行います。本時では自分で作ったお弁当について、発表を行います。
場 所	アートセンター 2階 202教室

8年生（中2）

★国語（書道）

授業内容	行書作品制作「日進月歩」
授業の概要	前期で行書の基礎を学習し、後期になってから応用に入りました。古典を使用し、自分の好みの書風を選んで作品制作をします。
場 所	中学年学習校舎 2階 203教室

★理科（IB）

Lesson Title:	Humans and Space, What's Next
Key Activity:	Designing a tool to aid in seeing distant objects.
授業の概要	This class is dedicated to an exploration of Human Ingenuity and how it relates to understanding our earth and space. The students will have a chance to create their own innovative tool to help them see into space and will learn about what some other people have already done for space exploration. The students will have the opportunity to think about the pros and cons of space research and not only what may come next but what should or shouldn't come next in humankind's earth and space fields of study.
場 所	サイテックセンター 1階 106教室

9年生（中3）

★社会（IB）「MYP社会」

Lesson Title:	League of Nations and Manchurian Crisis
Key Activity:	Mock LON meeting on the Manchurian Crisis
授業の概要	Based in the IB Inquiry method and underpinned by radical-local teaching and learning model of social science instruction, this lesson will focus on student's inquiry and communication skills. Students will be assigned roles to represent actual participating countries from the League of Nation's Manchurian Crisis of 1931. This is part of the Grade 9 MYP Humanities Unit on Japanese history 1900-45. Two student will present a "fact finding report" on the Manchurian Crisis to the mock LON session. The students will research their nation's international position circa the 1930's and be ready to take part in a debate and parliamentary procedure on the Manchurian Crisis. Student will come to a resolution on the Manchurian Crisis and vote to resolve the issue. Student will follow up this lesson by comparing their resolution to the actual outcome of the LON's Manchurian Crisis.
場 所	サイテックセンター 5階 505教室

★社会

授業内容	リスク！！見えないものの発見と解決～中学公民経済分野
授業の概要	昨年度まで金融教育研究校の指定を受けながら経済と金融の授業を実践してきました。今年度も引き続き金融教育実践校として活動を継続しています。その中の一つ、グローバル教育の手法を用いて社会的あるいは個人的に起こりうるリスクと、その影響を考察し、解決策を探ります。
場 所	高学年校舎 3階 316教室

★国語

授業内容	多角的に考え、意見を発表する
授業の概要	前の教材から学んだ「多角的に物事を見て、考えること」を、グループ学習を通して実践します。一つの論説文について筆者の主張を多角的な観点で見直し、自分の意見をまとめます。それをグループ内で討議した後、グループの意見として発表します。グループ学習に入る前に、百人一首の暗唱、教師が読み上げる文章を聞き取ってメモをし、その後、出される質問に答える聞き取りテストを実施します。
場 所	高学年校舎 4階 413教室

★数学

授業内容	三平方の定理の利用
授業の概要	玉川学園高学年9年生の数学は、後期前半で中学数学の教科書指導内容を終了します。後期後半からは中学数学内容の演習を行い、理解を深めます。今回の授業は、「三平方の定理の利用」について通常の授業をご覧ください。
場 所	高学年校舎 3階 307教室

★理科

授業内容	実験デザイン
授業の概要	玉川学園 12 の教育信条の一つである「第二里行者と人生の開拓者」にもありますように、理科教育でも開拓者的実践力の育成を目指しています。そこで大学に入った後に特に研究分野で真価を発揮すると言われるIBのカリキュラムの中から、実験デザインに関する部分を国際標準化と絡めてSSHの研究開発として、9年の理科に昨年度から取り入れています。ここでは、その一例をご覧ください。
場 所	サイテックセンター 2階 203教室

★英語

授業内容	動名詞を用いた文
授業の概要	9年生では、A1、A2、Bコースと習熟度別に3段階にコースを分けています。このクラスはA1クラスにあたります。 A1クラスは、週に5回授業あるうち2回をイングリッシュ・ネイティブ・スピーカーの先生が担当し、3回を教科書や問題集などを用いた授業を展開しています。 教科書は『バードランド』を使用しており、英文を読み取るだけでなく、英語を自ら発話していけるような足腰を鍛えていくことを授業の主眼としています。
場 所	高学年校舎 4階 412教室

★総合的な学習の時間「学びの技」

授業内容	プレゼンテーションスキル
授業の概要	4月からこれまで、ラーニングスキル習得のため、自分で設定したテーマに基づいて論文を書く準備をしてきました。論文の骨子や展開もほぼ固まったので、それを12月の玉川学園展においてポスターセッションの形式で発表し、年明けの論文執筆につなげる予定です。今回の授業では、効果的なプレゼンテーションの仕方を生徒に考えさせ、練習を通して定着させる試みを紹介します。
場 所	高学年校舎 2階 学園マルチメディアリソースセンター (MMRC)

10年生（高1）

★地理・歴史「歴史概論」

授業内容	近世
授業の概要	この科目は、従来の日本史と世界史を融合させ、それぞれの枠にとらわれずに高等学校で学ぶ歴史の基礎的な内容を理解させることを目指して設置されたものです。今回の授業では、日本における近世国家の成立と諸制度の整備に関する単元の一部を、世界的観点を含めて取り上げます。
場 所	高学年校舎 3階 313教室

★数学「数学I・数学A」

授業内容	確率の計算、期待値
授業の概要	通常授業をご覧ください。数学の中でも確率は実生活に密接に関係している内容であり、なじみ深い分野でもあります。今回は実生活に潜む例に挙げ、確率をより深く感じながら授業を進行したいと思います。
場 所	高学年校舎 3階 310教室

★理科「理科総合A」

授業内容	考えを組み立てる
授業の概要	プロアクティブラーニングコースの物理では、初見の状況を定義から組立てて理解したり、既習の学習事項を用いて未習の学習事項を組立てて理解したりするなど、思考の組立てに焦点を当てた授業を行います。
場 所	サイテックセンター 4階 401教室

★外国語「英語Ⅰ」

授業内容	文法の学習
授業の概要	文法練習を中心とした授業を発表します。A1コースには、文法項目を知識で終わることのないよう、実用的に運用する力を付けることを常に目標としています。そのため、学習した項目を用いて、各自が、独自性があり、より高度な文章を作ることを奨励しています。また、教科書からもう一步踏み込んだ例文も提示することで、英語による表現力の幅が広がる楽しさを味わわせます。
場 所	高学年校舎 4階 406教室

★保健体育「体育」

授業内容	なぎなた
授業の概要	なぎなたを通して技を練り、心を磨き、気力を高め、体力を養う。なぎなたの特性の中に生きる日本の優れた伝統文化を守り、信義を重んじ礼儀作法を身につけさせ、心身共に調和のとれた女子を育成します。
場 所	記念体育館 2階 体操場

★情報「情報C」

授業内容	ネットワークのしくみとセキュリティ
授業の概要	玉川学園の必修「情報C」は、10・11年各1単位で展開しています。今回は「ネットワークのしくみとセキュリティ」における通常授業の公開です。身近な例を取り上げ、具体的な演習やグループで取り組む課題を通して、知識・技能を深めさせることが目標です。
場 所	高学年校舎 2階 217教室

★家庭「家庭基礎 (tap分野)」

授業内容	玉川アドベンチャープログラム
授業の概要	ねらい：同じ目的を共有した集団での体験を通して、自身を発見します。 活動内容：玉川アドベンチャープログラム (tamagawa adventure program) を用いた体験学習を行います。
場 所	(晴天時) 低学年・経塚グラウンド (雨天時) 心の教育実践センター ホール

11年生 (高2)

★外国語「オーラル・コミュニケーションⅠ」

授業内容	Developing oral fluency skills
授業の概要	In this class, students focus on developing oral fluency skills. Students practice free-speaking on a topic (of their choice) while their partner takes notes. Next, they practice speaking in pairs starting with topics of their choosing before easing into small-talk conversation practice.
場 所	高学年校舎 4階 410教室

★芸術「音楽Ⅰ」

授業内容	混声四部合唱
授業の概要	前期は4月から7月の音楽祭に向けて、パルストレーナ作曲「教皇マルチェルスのみさよりグロリア」を無伴奏で年学年合唱(251名)として発表しました。後期は学校生活と行事に結びついた楽曲を取り上げ、日常的に音楽を愛好する心情を育て、芸術の本質を追究する態度を養い、立体的な合唱を創り上げることを目標としています。今回の授業の教材は、クリスマス礼拝に向けての「讃美歌」と混声四部合唱「新しき日」です。
場 所	中学年中央校舎 2階 音楽Ⅰ教室・音楽Ⅲ教室

★芸術「美術Ⅰ(絵画)」

授業内容	静物をモデルにした鉛筆デッサン
授業の概要	前期の鉛筆デッサンで基本的な形を把握し、質感の表現方法を学びました。更に、モチーフの質感だけでなく、空間も意識した表現方法を学び、水彩絵の具で着彩し、絵画の表現力を高めていきます。
場 所	アートセンター 2階 203教室

12年生(高3)

★国語「現代文(理系)」

授業内容	グループ発表
授業の概要	この授業は「SSH」の一環としてスタートしました。国語と理科のコラボレーションで、国語の教員と理科の教員がチームティーチングを行っています。教材は、各教科書会社の自然科学分野の評論を自主編成しました。第一章「近代科学の発生と発展」、第二章「文化と自然科学」、第三章「これからの自然科学」で構成されています。 ◎学習活動の流れ ①各章の指定された文章について、生徒各自でそれぞれの文章を読む。 ②キーワードや難解な語句を調べて提出する。 ③要旨を400字程度にまとめて提出する。 ④指定されたグループに分かれて、指示された文章の内容を詳しく調べ、討議し、パワーポイントを使って、その内容を発表する。 ⑤相互評価をする。 ⑥各章で学習した内容をふまえて800字程度で小論文をまとめて提出する。 ◎今回の授業は、グループ発表の時間です。
場 所	高学年校舎 4階 402教室

★公民「ワールド・スタディーズ(イングリッシュ)」

授業内容	(財)日本ITU協会とのコラボ授業 国際会議体験
授業の概要	国際化が進展する社会において、我々の日常生活に影響を与えているのが様々な分野の国際会議です。この授業では、国際機関に関する座学や模擬国際会議等の体験を通じ、単なる英語学習や留学では得られない、世界規模で急速に進むグローバル化の舞台へと、生徒の関心を導きます。
場 所	高学年校舎3階 302教室

★理科「SSH科学(天文)」

授業内容	プラネタリウム番組制作発表
授業の概要	教職系など文系進学希望者を主対象にした授業で、前期に天文学の知識学習を行い、後期は各自が興味を持った話題を調べてプラネタリウムを使って発表させます。宇宙の忠実なシミュレータであるプラネタリウムという利点と制約をいかにうまく生かして発表できるかご覧頂きます。
場 所	サイテックセンター 1階 スターレックドーム

シンポジウム

12日 14:10- 中学年講堂

「求められる教師力 ー採用・研修・評価ー」

中教審は、「新しい義務教育を創造する」の中で、“あるべき教師像”として優れた教師の条件を示しました。「教職に対する強い情熱」「教育の専門家としての確かな力量」「総合的な人間力」です。加えて“教員の資質向上のために必要な能力”として「実践に結びついた授業力」「生徒指導力」「子ども理解力」「集団の指導力」をあげています。また、ある教育関係者は“若手教員に求められる基本的な姿勢”として、「協働性」「主体性」「向学心」をあげています。

新卒者の就職が難しい時代が再来し、コミュニケーション能力の不足が言われるようになっていきます。一般企業が求める人材像は、すなわち学校教育から排出される卒業生であり、必要とされる資質能力を付加できないまま社会に送り出してしまうのではないのでしょうか。教育機関は、「この学生を本当に社会に出して良いのか」と自ら問わなければなりません。

「社会が求める人材＝学校が輩出する人材」であるように、両者は表裏一体です。本シンポジウムでは、学校や企業の採用、人材育成を例に取り上げながら、附属校・併設校として育てる資質能力を考えていきたいと思えます。

(1) スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 「高校生による脳科学研究」 (10~12年生<高校生>)

メディアの中でも脳科学が取り上げられる昨今ですが、その内容の信憑性を問うことは非常に難しいことです。実際の脳科学の研究は非常に難しく、高校生がいかに科学的に取り組めるか、一線の研究現場で活動をする研究者と共に模索してきました。生徒個人個人が、いかに科学的に脳科学に取り組めたかを是非ご覧頂きたいと思います。

(2) 国際交流「アフリカン・スタディーズ2010」(12年生<高校3年生>)

メディアを通さない等身大の「アフリカ」を確かめるために、2009年から教科学習のスタディ・ツアー「アフリカン・スタディーズ」を実施しています。ボツワナと南アの提携校の訪問、JICAの青年海外協力隊が活動する現場やスラムの訪問—社会問題や日本の国際協力について現場を通して考えます。世界が今熱い注目をするアフリカ参加生徒は何を感じ学んだのでしょうか。生徒の声をお聞かせください。

分科会【第1部】**13日10:00- 各分科会会場****(1) 「中学校・高校・大学(社会)の学びの連続性を考える —中・高・大とつなげる「学び」と「指導」**

近年多くの大学で大学1年生の学力が低下し、どの大学でもFYE(1年次教育)のあり方を検討していると言われます。さらに、中高一貫教育が多くの公立・私立の学校で行われ、さらに、高大連携についてもその必要性が論議されるようになりました。そうした状況の中で、大学附属中高生徒にどのような学力を獲得させるか、また、大学卒業時に、社会のデマンドに応えられる力とは何かを分析し、大学附属併設中学校・高等学校生の普遍的な「学び」の連続性について検討します。

(2) 「IBの学習者像に基づく探求型学習の実践例の紹介」

国際バカロレア(IB)は日本では未だその知名度は決して高くはありませんが、その教育手法は、欧米を中心として世界的に広く受け入れられています。

立命館宇治中学校・高等学校と共に、玉川学園中学部・高等部でも、この世界共通教育プログラムが標榜する学習者像と、それぞれの学校が持つ教育信条の効果的な融合を図り、教育のグローバル化を目指しています。この取り組みは、日本の教育内容を世界基準に合致させる先駆者的役割をも担っています。

本分科会では、このIB教育手法に基づいた教育手法の事例紹介として、立命館宇治中・高より国語科(日本語)、玉川学園中・高より理科・社会科クラスを取り上げ、その授業手法及び生徒のプレゼンテーションを紹介します。その後、出席者の方々との質疑応答、意見交換の場を設け、教育のグローバル化とは何かを考えていきたいと思えます。

(3) 「スーパーサイエンスハイスクール指定による教師の取組と役割」

玉川学園がスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定を受けて3年目になりました。本校のSSH研究課題の一つとしてIB(国際バカロレア)のカリキュラムを導入した理科授業を2009年度より試行しています。本分科会では(1)IBの理科カリキュラムの概要とその一部導入の様子について、(2)実際に実験課題をワークショップ形式で行う、の二つを行う予定です。

(4) 「学校図書館の役割 — 教科教育との協働を目指して」

学校図書館に求められる役割とは何なのでしょう。それは教科教育との連携や協働を通じた学習支援にあると考えられます。学習者にとって情報リテラシーやメディアリテラシーといった新しい概念は、今や教科を横断して求められる重要な資質であり、図書館活用を通して育成することが可能な能力です。玉川学園 学園マルチメディアリソースセンターは「学習・情報センター」としての機能向上を目指し、教科教育との協働の可能性を追究しています。本分科会において、参加者の皆様との活発な情報交換や議論を期待しています。

(5) 「高大接続の事例とそれぞれの教師の役割」**(高校教師・大学教員の意識の違いやそれぞれ求められる役割について)**

大学における初年次教育の役割のひとつに「高校生から大学生への移行（転換）教育」があげられます。初年次教育は高校生を大学生にすると同時に、大学生としてアイデンティティを確立させ、卒業後、自らの力で生きていく自覚と自信をもたせることをめざしたプログラムです。こうした初年次教育において、高大接続の果たす役割はことのほか大きいといえます。高大接続は、生徒が学生へと移行するプロセスにおいて、高大が協力して自発的、自立的な学習者を育てることに究極の目的があります。実際には、高大接続の名のもとにさまざまなプログラムが考えられるにせよ、その絶対的条件は学習者中心のプログラムでなければならないということです。本分科会では、大学4年間の学士課程教育の起点として高大接続をとらえ、その役割と可能性について議論していきたいと思えます。

(6) 「国際理解力と教師力」

昨今、中国人及び韓国人高校生の海外進出への数は急速に増えており、国際社会の中で活躍しようとする両国生徒の意欲を強く感じます。

一方、日本人高校生の同分野における関心度は下降気味であり、国際社会における将来の日本人の立場が、アジアの仲間を先を越され、孤立してしまうのではないかとさえ感じます。

玉川学園ではこの現実には危機感を持ち、国際社会の中で活躍できる人材の育成を目指し、多種多様なプログラムを実施しています。高校段階では、「国際会議」、「国際奉仕活動」、「スポーツ交流」、「音楽交流」、「アフリカン・スタディーズ」、等々をテーマとして、年間約80名を海外に派遣すると同時に、台湾、オーストラリア、ブラジル、米国、ドイツ、フランス、オーストリア等の国々から、年間を通して約150名から200名の生徒を受け入れています。本分科会では本校の実践報告を交えながら、国際理解教育の問題点とその目的を探り、国際理解教育における教師力とは何かを考えていきます。

(7) 「生徒の学ぶ力を引き出す教師のグループファシリテーションスキル」(人間関係づくり、社会性を高めるアドベンチャープログラムを通して)

学校という環境は様々な学びの機会を提供しています。アカデミックスキルの向上はもちろんのこと、日常的に生徒の社会性及情操面を育むことは現代社会において必須なLife Skillの要と捉えることができるでしょう。玉川学園では2000年よりtapと称したアドベンチャー教育プログラムを実践しており、生徒の社会性及び感情面の育成に焦点を当て、モチベーション、意思決定、創造的思考など様々なコミュニケーションワークを通してライフスキルの育成を支援しています。本分科会ではその手法の一部を、体験学習を通して共有し、指導者の視点を刺激します。

***参加型ワークショップとなります**

(8) 「授業力短期集中講座(スキルアップ研修)」**(モチベーション向上のための、すぐに役立つ数々のテクニック)**

授業において、教科の専門性を高めたり的確な説明に磨きをかけたりすることは重要です。しかし、生徒のモチベーションを向上し、集中力や興味関心を増幅させることで、授業効率を高めることも重要です。

本分科会では、授業効率を高めるための「すぐに役立つテクニック」を紹介・体感していただいた後、参加型ワークショップ形式で実践していただきます。方法論は人それぞれです。個性に合った方法論を発見することで、授業力の向上に大きく寄与します。

***参加型ワークショップとなります**